

事業報告

<研修名>

「協育」ネットワーク連携促進事業 第5回 外部人材を活用した地域プログラム開発事業

<開催日時>

平成31年2月16日(土) 10:00~12:30

<会場>

臼杵市中央公民館

<参加人数>

小学生参加者：17名

臼杵市・豊後大野市・佐伯市の担当者、「協育」コーディネーター、消防団員：7名

臼杵市ジュニアリーダー：2名

<研修趣旨>

地域学校協働活動を推進し、地域における子どもの学びの充実を図るため、民間企業・団体等を中心とした多様な経験や技能をもつ外部人材を活用した、特色・魅力ある教育プログラムの開発・企画・提示や情報の提供を行う。

また、各地域の特色を生かした、外部人材と連携した体験プログラムを実施し、その様子を各市町村担当者や「協育」コーディネーター等が参観することとおして、プログラムの紹介・普及を行うとともに、広域・多機能型「協育」ネットワークの拡大・充実と支援者のスキルアップに向けた支援を行う。

今回は、多くの防災体験プログラムをもつ大分地方気象台の協力により、「津波防災ワークショップ」を実施し、小学生チャレンジ教室等で行うことのできる防災体験プログラムの事例を示し、その普及を図る。

<研修内容>

【第1部】「親子で備える！小学生津波防災体験 in 臼杵」

実演団体

大分地方気象台

地震が発生した後、津波が到達しない安全な場所までどのようにして避難するか、様々な障害を避けながら限られた情報をもとにグループで話し合い、判断力を高め、正しい知識を身につけるための「津波防災ワークショップ」に小学生が取り組みました。市町村からの参加者は、自らも体験しながら、その様子を参観しました。

【第2部】第5回外部人材活用プログラム開発研修

大分地方気象台からプログラムや今後の市町村での実施の手続きについての説明がありました。また、臼杵市・佐伯市の担当者が、各市での取組や外部人材の活用状況について意見交換を行いました。

<当日の様子(写真)>

【全体会】



【第1部】「親子で備える！小学生津波防災体験 in 臼杵」



【第2部】「第5回 外部人材活用プログラム開発研修」



＜参加者感想＞

◆◆参加児童及び保護者の感想◆◆

- 普段から、家からどこに避難するかを話し合っ、命を守りたい。(3年)
- 津波のことが詳しく知れてよかった。50cmでも津波に巻き込まれるのがびっくりした。(4年)
- もし津波が起きた時のために自分で逃げるのも大切だけど、周りの人たちに声掛けながら避難する方がいいから、普段から声を出せるようにしたい。(5年)
- 地震が来たときは、自分の命は自分で守れるようにしたいと思う。(6年)
- 日頃からの意識が大切な命を左右すると感じた。(保護者)
- とても勉強になった。家族でまた話し合いたい。(保護者)

◆◆市町村参加者の感想◆◆

- 子どもたちなりに考え、いろいろな意見が出て、今後の津波対策に活かされる事だと思われた。また、子どもたちは津波発生後の行動等を再確認できたのでは？
- 子どもたちが考えて作業している姿が見れてよかった。学校での取組で知識として入っていることがわかった。
- 津波に対する知識も考えた後だったので、受け入れやすかった。親子で話をして、自分の身を守る約束を確認することが大事だと思った。
- 親も一緒に考える形で実施できた家庭はより学習が深まると思った。気象台の職員の方はわかりやすく、資料もためになった。